佐藤溪峰著

萬家實益日用寶典

發行所　弘運館

268
199

◉遊んで居ては儲からぬ商買するには何がよい◉

就職 手引◉職業之巻◉ 再版

大好評洋裝美本全壹冊 特價郵税共 金參拾貳錢

郵便切手代用送費共參拾五錢

本書ノ發行セラルヽヤ薄資本者ニ歡迎セラル事恰モ盛夏ニ雲晛ヲ望ムガ如ク出版以來非常ナル好評ニテ已ニ數千部ヲ賣盡セリ本書ヲ購入セラレタル人ニテ從來徒手無職ニ困難セラレシ人モ今ハ已ニ一定ノ店舗ヲ構ヘ堂々ト本書内容ノ商品ヲ製造シツヽ日毎ニ隆昌ニ趣クヲ以テ厚ク禮ヲ述ベラルヽ人又ハ單身行商ヲ爲シテ生計ヲ立テラルヽ人等數ヘ來レバ應接ニ暇ナキ程デ斯ル珍書ノ出タルハ出版界空前絶後ノ事ト云フベキナリ諸君速ニ買イ玉ヘ今左ニ掲載概目ヲ記セバ

掲載目次概要

○人造氷ノ製法○葛澱粉類製造○精練漂白法各種○染料製造並ニ染色法○古物色揚摸樣拔法○象牙大理石木材各種着色法○紙類製法○松葉ニテ製紙ワラ紙製法○水記萬年草紙○萬年手帳○磨紙○紙製ハンカチフ○簡易紙皮○紙石盤○紙ヲ以テ氷囊枕、傘布團製造○文明復寫紙○木材ヘ無刀ニテ彫刻ヲル法○各種墨類製法○各種インキ製法附料製法○人造象牙、珊瑚、大理石及人造石ノ製法○各種白粉化粧品製法○銅器ノ錆ヲ落ス法○鞣皮製法○各種製版ゴム印製造術○最新式藥品金銀鍍金術○寫眞法○石鹼化粧品製法○萬能のり製法○其他數種並ニ不景氣利用法○薄資連用法○地方田舍ノ有望事業○利殖統計表○商家ノ金科玉條

一讀悠然トシテ骨肉躍ルノ大奮發ヲ起ス實ニ文明商人必備ノ座右銘タルヲ疑マセン右ノ内尤モ利益多キ藥品金銀鍍金術水記萬年草紙萬能のり手帳ノ如キハ本書ヲ一讀アレバ行商地ニ於テ夜間製造シ得ラルヲ以テ一冊三十貳錢トハ法外ニ安イ本デス

◉帝國ノ新聞王時事新報曰ク薄資ニテ從事シ得ベキ殖産工業ニ關スル諸般ノ製法數十種ヲ簡單ニ記述セルモノニシテ商人ノ必讀スベキ珍書ト稱賛セリ

三重縣四日市市新丁

發行所 弘運館

（振替口座大阪七六七三番）

特51
522

序

本書ノ發行ニ就テ著者ヨリ批評ヲ乞ハレマシタカラ親シク其内容ヲ見マスニ古人ノ遺サレタ訓言ヲ實地ニ應用シテ其効果ノ最モ確實ナル者ヲ編輯シテ出版セラレタルモノナレバ各戸ニ壹書ヲ備ヘ坐右ノ銘トセラレタナラバ萬事ニ用ヒテ無形ノ利益ヲ得ラルヽト確信シマス

一舜庵

44. 8. 4

目次

一水の善惡を見分る法
一惡水を清くする法
一鍋釜の鉄氣を去る法
一新しき木器の木香木澁を拔く法
一漆かぶれの即治法
一火傷の即治法
一魚の骨立たるを治す法
一虫齒痛みの即治法
一そばかすの即除法
一にきびを治す法
一ほくろを拔く法
一洋燈の危險を防止する法
一洋燈の硝子と金物を接く法
一牛乳ばたの臭氣を去る法
一煙管用黑竹の製法
一硝子製鏡を磨く法
一糊にて張たる物鼠の喰わざる法
一樹木の虫を去る法
一鼠族の浸入を防ぐ法
一油虫退治法
一蠅を去る法
一蚊の驅除法
一煙にむせざる法
一船に醉ざる法
一大酒して醉わざる法
一酒の醉を即坐に醒ます法
一酒の中毒を治す法
一鷄卵の善惡を見分る法
一醬油の可否を見分る法
一醬油の變味を戻す法
一蒲鉾の善惡を見分る法
一建具戸棚の汚損を清くする法
一硝子壜を清潔にする法

一酢の黴を止むる法
一味噌の味損せしを直す法
一大根澤庵漬の酸味を去る法
一香の者黃色に美しく漬る法
一しいたけを生にする法
一鹽魚を生の如くする法
一銀の善惡を見分る法
一下等の白粉を上等に爲す法
一遠路を歩行して足を痛めぬ法
一ペンキ塗家屋内の臭氣を去る法
一油揚鍋に火入りたるを消す法
一飯早焚の三德法
一樟腦の貯蓄法
一火を保たしむる法
一家内にて盜み隱したる人を見出す法
一不時わさびの製法
一かずのこ早く柔かくする法
一川魚を柔かに煮る法
一旅にて道に迷ひたる時の心得
一風邪に浸されざる法
一果實貯藏法
一鮑を柔かく煮る法
一虹驅除法
一油の凍らざる法
一酒の腐敗を防ぐ法
一白かたびらを洗ふ法
一飯煮損じを戻す法
一夏期飯のねばらざる法
一飯のこげくさきを戻す法
一餅かびざる法
一水餅にする法
一錫の入物のいがみたるを直す法
一つゆ者に毒氣あるを悟る法
一井戸の底を見る法
一堀井戸に水の出ざる時水を呼ぶ法
一井戸を堀る先に水脈を知る法

一醬酒醬油等のしみ付を除く法
一芋のゑくきを治す法
一墨寫り秘傳の法
一草木の花色を變色せしむる法
一寢小便を治す法
一紙がらす製造法
一木綿に文字を書く法
一接木の妙法
一下等の煙草を上等にして呑む法
一喰合せ禁忌
一植木鉢に苔を付ける法
一寒にこゞゑぬ法

一藍の色を拔く法
一風呂或は水船のもりを止る法

以下呪法

一夜目さめたき時の法
一夜泣の呪
一夜怪しみあるとき目さむる呪
一田虫のまじない
一金け留る呪
一川を渉るに無難の呪
一金物を糊にて張る呪
一乾鮭をきる呪
一かみ犬を防ぐ呪
一女の外心あるを顯す呪

一れこりたとす呪
一塗物に紙を張る呪
一乳かせの呪
一燈火へ虫よらざる呪
一蛇を家の内へ入れぬ呪
一にらにん肉ねぎを食して口中の臭きを去る呪
一はげ山に木を生ずる呪
一畑に虫つかざる呪
一もの忘れせぬ呪
一暑氣にあたらぬ呪
一小便を久しくこらゆる呪
一小兒頭瘡の呪
一しやくりを留る呪

一耳だれのまじなひ
一目いぼを治す呪
一目に物の入たるを出す呪
一指一切の奇法
一あひるに玉子多く產す呪
一あせぼのまじなひ
一ざくろ鼻を直す呪
一こむらがへりを治す呪
一こぶ落しのまじなひ
一木の實に鳥をよせぬ呪
一胡椒を粉にする呪
一手足をくぢきたる治呪
一蟻の耳に入たるを出す呪

一あかぎりの呪
一まむしを去る呪
一同さゝれたるを治法
一毛虫を去るの呪
一下血のまじなひ
一下痢のまじなひ
一目まいを治す呪
一魚の目の呪
一のみしらみ耳に入たるを出す呪
一のみをさる呪
一咽に物の立たる呪
一同餅つまりたる呪
一咽かはかざる呪

一くさびらの毒を解する呪
一蜘蛛にさゝれたるを治す呪
一うるしにまけぬ呪
一百足にさゝれたるを治す呪
一耳に虫の入たる呪
一馬を舟にのする呪
一羽蟻出るを留る呪
一はぎりを治す呪
一紋所のよごれを除く呪
一蜂にさゝれたる時の呪
一いぼを取るまじなひ
一いたちの道を留る呪
一犬にかまれたるを治す呪

附錄

諸商人の符牒
世界奇聞集

◉安價古今無類◉

一名刺印刷 新アイボレー紙箱入百枚

字体隨意住所姓名付

百枚入壹箱金拾五錢送料金貳錢

右迅速着金五日以内ニ送ル

右發賣元 三重縣四日市々新丁 振替大阪七六七三番 **弘運館**

紙製白板 （竪二尺六寸 横一尺八寸）

壹枚金參拾錢
小包送料金八錢

此の白板は各學校よりの屬托に依り發明したるものにして專ら學童教授用に使用するものなり即ち習字の時間に普通の墨筆を以て此白板に書し克く筆法を敎へ然る後水分ある布巾にて能く拭き取れば直ちに元の純白板となる學校になくてはならぬ必需品なり

◉使用度數は大凡壹千回

萬家寶益

日用寶典

◉水の善惡を見分る法

水を湯呑に入れ（石鹼をアルコールにて溶解したる液を三四滴）注入すべし、其水が純粹なる時は清澄し居れども若し不純混合物ある時は必ず白き泡立つなり、又一法は汲上たる水の中へ「ホーシャ」の少量を投入すれば純良なる水は清澄し居れど惡水は忽ち濁りを生ずべし。

◉惡水を清くする法

惡水を清くするには普通一般は砂を壺に入れたる慮過器にてコスを常とすれど鐵氣を含む井水又は濁り水は一度沸騰して放冷すれば冷るに從ひ汚物は底に沈澱するものなり。

◉鍋釜の鐵氣を去る法

新しく買入れたる鍋釜の「カナケ」を取るには其鐵氣を拔かんとする鍋釜にて藁を焚き充分灰となして冷し置き然る後鍋釜より灰を取り去り釜の中へ種油を塗りつけ、竈の下に緩火を入れて塗りたる油氣を乾かすべし。

◉新しき木器の木香木澁を拔く法

蕎麥の粉を少し其器物に入て沸騰したる湯を注入し蓋を爲して冷ゆる迄置けば木香木澁を皆取り去らるべし後是れを充分洗ひて用ゆべし。

◉漆カブレの即治法

染物刷毛に荏の油を附け一日に三四回づゝカブレたる所を撫づるべし。

◉撲身の即治法

生姜をよくすりをろし其汁を酒又はアルコールに搔き混じ饂飩粉を煉て痛む所へ塗りつければよし。

◉火傷の即治法

饂飩粉を火傷の上に厚く塗り附け綿帶にて卷包みをくべし。

◉魚の骨立たるを治す法

呉茱萸を嚙みてつくればよし、又魚毒に中毒したる時は大豆の煮汁を飲むべし。

◉むしば痛みの即治法

銀杏を生にて一つ食後に嚙めばよし、又古茄子を黑燒として痛む齒につけてよし

◉そばかすの即治法

桃の花と冬瓜の實とを等分に細末にして蜜にて溶解して塗るべし。

◉にきびを治す法

明礬の細末を酒にて溶解して塗れば極素人の簡易治療法なり。

◉ホクロを拔く法

かぶらの種を克くすり毎夜塗るべし又桑の枝を煎じつめて塗りてもよし。

◉洋燈の危險を防止する法

ランプの油壺へ其半分程鹽を入れ其中へ石油を入れ置けば火の光り強く若し過ちて取落し油壺の破れることあるも火は油に燃えうつる事なし、又油の消耗を防ぎて頗る德用なり。

◉洋燈の硝子と金物を接ぐ法

先づランプの壺を克くふき取り油氣を去りて其接き所へ「ギブス」を水にて煉りたる者を塗り直ちに金物を接き合すべし。

◉牛乳バタの臭氣を去る法

硝石を極少量純良なる水に溶解し茶碗に一杯を絞りたての牛乳及びバタ凡そ二斗の中へ入るべし。

◉煙管用黑竹の製法

適當の青竹を切り來り而して「ログードエキス」を溶解したる液内に浸し十二時間餘の後引上て日蔭に立置くべし。

◉硝子製鏡を磨く法

鏡の上へ煙草の半分計り吸ひたる吹殻を四寸内外の鏡なれば五六服分を吹き乗せ鏡の上を轉がらせて吹殻を捨て柔かき紙にて克くフキ磨けば誠に美しくなる、又一法はブランデーカ石油又は酢にて拭ケば美しくなるものあり。

◉糊にて張たる物鼠の喰わざる法

「コンニャク」粉を糊の中へ少し入れて張る時は決して鼠食せず又の竈の炭を糊に交えて張るもよし。

◉樹木の虫を去る法

海蠟を木の枝にかけ置けば虫は悉く死する者なり。

◉鼠族の浸入を防ぐ法

座敷及び床下の土を取り水にて溶きて鼠の通行路を塞ば百日の間に皆悉く去なり。

◉油虫退治法

カハラ蓬の葉を蠅張又は籠の間に置く時は油虫は皆全滅するものなり、一名草ヨモギとも云ひ食しがたし。

◉蠅を去る法

大寒中の雪の水を器物に注ぎ必要なる場所に置けば去る者なり、又古茶の粉を火鉢にて焚て煙むしてもよし。

◉蚊の驅除法

除蟲菊の枝を火鉢にて煙せば蚊は悉く斃死す又干鰻を焚て煙すも蚊悉く死す尚又「センダン」の花と栢(かや)の實とを等分に細末になし屋内にて焚くも又一法。

◉煙りにムセザル法

大根を口に含み又は唇に塗る時は決して煙にムセル事あらざるべし。

◉船に酔ざる法

「コロラル」三ガロムに蒸餾水六十瓦薄荷油二滴崖に適宜の砂糖を加へ船に乗る前半分飲置き船中にて克く熟睡すべし、若し眠られざる時は殘の半分を又飲むべし其外梅干の種を除き紙に包みて船に乗る前に臍の上に附け置くも妙なり。

◉大酒して酔はざる法

上等の干柿を薄く片て紙に包み臍の上に置きて飲酒すれば酒に酔はざる事請合又干柿のなき時は飲酒の前に熱き湯を三合位飲んで腹を充分に張らして呑むも奇妙に酔はざるなり。

◉酒の酔を即座に醒す法

湯呑一杯に水を盛り「アンモニヤ」を二三滴落して飲めば必ず酔わ醒むる者なり

酒の中毒を治す法

黒大豆の煮汁か又は「ケンポナシ」の絞り汁を飲むべし。

◉鷄卵の善悪を見合る法

卵を水の中に入て少しにても尖りたる方が下向く者は新しき者なりと知るべし、又疊の上にて卵を横に轉ばし直に其位置を變じ縦に轉げる者わ新しく其儘横になる者は古きとしるべし。

◉醤油の可否を見分る法

青磁の茶碗に醤油を盛り克く箸にて攪拌すれば枇杷色と成て泡立つを見るべし、斯くて暫時の間泡の消えざるものを純良なる者と知るべし、若薄赤色になりて泡立ものは多少混合物ある中等以下の醤油と知るべし。

◉醤油の變味を戻す法

醤油を鍋にて克く沸煮し段々火を減じて放冷する時は不純物は泡に変りて浮上るを見る之を取り除けば極上等の醤油となる後是れを貯へて密封すべし、

◉蒲鉾（カマボコ）の善悪を見分る法

蒲鉾を二つに手にて折に粘力なく脆き者は腐敗せる魚類にて製したるものと知るべし。

◉建具戸棚の汚損を清くする法

硫酸を少量布切れにつけて克く拭き取れは汚物は悉皆取り去らるゝ者なり、而して後清水にて二三度つきたる硫酸氣を拭取るべし、此硫酸にて拭く時には必ず硫酸液の手に付かざる樣充分注意すべし、

◉硝子壜を清潔にする法

石灰を細かくして壜の中に入れ又新聞紙を小さくして其中へ入れ半分程水を入れて克く振り廻す時わ誠に美しくなる事請合、

◉酢の黴を止むる法

酢の中へ少量の燒鹽を入れ置けば必ず黴びる事なし。

◉味噌の味損せしを直す法

生松を切り來り皮を取り除き何本にも打割りて細くし味噌の中へ差込み置けば十日間位にて必ず味よくなるものなり、

◉大根澤奄漬の酸味を去る法

大根漬が酸くして其儘食せられざる樣になりたる時は漬樽が二斗位なれば「タンサン」を十匁程投入し皆其分量にて樽に從ひ入れ置けば何程酸き者も味克くなる

ものなり、若し味の戻らざる時き分量の不足せるものなれば尚一度投入して十日位其儘に爲し置べし。

◉香の物黄色に美しく漬る法

漬樽の下と中央と上とへ蕎麥(ソバ)の莖を列べて漬るべし又粟の糠にて漬るもよし、◉尚一法は糠の中へ茄子の葉を交へて漬るも妙なり。

◉しゐたけを生にする法

器に砂を入れ是れへ水を打て砂に水を含ませ干(ホ)したる椎竹を植て一夜置べし莖まて柔かに生の如くなるなり。

◉塩魚を生の如くする法

塩魚を二つに揚げ紙に包み外面より水にてぬらし日蔭の濕氣ある所の土に一日一夜埋め置べし。

◉銀の善惡見分る法

堅き黑石に線を引て外の本銀の其石に引たる線と見くらべて見分るべし若し銀に不純物あるを知らば、鉛と銀とを器に入れて火にて溶解し是れをきめ粗き鍋の中に入再び熱する時き不純物たる鉛と銅は鍋に吸込まるゝが故に跡には上等銀ばかり殘るものなり。

◉下等の白粉を上等に爲す法

白粉を壺に入れ水を充分に入て克く攪拌し日々上水を捨てかへる事三十日計りにして極上等となるなり。

◉遠路を歩行して足を痛めぬ法

足の裏と甲に胡麻の油をぬるべし足痛む事なし又歩行の後足を洗ひ塩を足の裏へ塗り置くべし幾日歩行しても足痛む事なし。

◉ペンキ塗家屋内の臭氣を去る法

炭火を充分に火鉢に入れ杜松子を室内相當に煙むし約廿四時間建具を閉ぢて置くべし斯くすれば臭氣を悉く去るべし。

◉油揚鍋に火入りたるを消す法

油揚げ鍋に火入りたる時は青葉を入れて直らに蓋を爲すべし、又鹽を投入するもよし。

◉飯早焚の三德法

普通に焚くより少しく水を多く盛り釜の上に布切れを掛け其上より蓋をなし通常の如く火を焚き釜の湯氣を吹出ずれば直に火を引きて置くべし、飯早く上加減に出來て而も薪少しよりいらず德用なり。

◉樟腦の貯蓄法

壺に樟脳を入れて口を張りさかしまにして置きなば何時迄も消滅する事なし。

◉火を保たしむる法

胡桃一つを火にくべ半分程燒て火に成りたる時熱き灰の中へ埋め置けば四五日位は消えず火を保つなり、又炭火を保たしむるには始め丸炭を繩にて幾重にも卷き充分灰に埋めて小口より火を附くべし。

◉家内にて盗み隱したる人を見出す法

其年の歳德棚へそなへたる昆布を黑燒にして酒の中へ入て疑はしき人に呑ますべし盗みたる人は忽顔はれる。

◉不時わさびの製へ法

生姜(ショガ)と「カラシ」を等分に交じえてよくかきまわし用ゆれば匂ひ風味殊によし。

◉かずのこを早く柔にする法

古き壁土を少し入れて漬ける妙なり。

◉川魚を柔かに煮る法

川魚を煮るには醬油を米水にて加減して煮るべし、骨まで柔かになるなり、又昆布卷にするには鮒にあぶらを塗つて燒き昆布卷にして煮るべし骨まで柔かになる事請合なり。

◉旅にて道に迷ひたる時の心得

山中にて方角を見失ひ道知れ難き時は水の流れに從ひて下るべし野道にては澤潟(ナモダカ)を探し葉の指したる方人里最も近き方と知るべし。

◉風邪に浸されざる法

毎朝早天に生姜を一片づゝ含むべし必ず邪氣を受くる事なし。

◉果實貯藏法

果實を貯藏するには大根を適當に切果實のへたを差置けば久しく保つ事を得べし

◉鮑を柔かく養る法

大根にて小口よりたゝき養るべし。

◉虻驅除法

鰻の骨を木の下にて焚きてよし。

◉油の凍らざる法

油瓶又は油入れに胡椒を四五粒入置置べし、尙水物なれば油と同樣胡椒をを入れ置けば寒中にも凍る事なし。

◉酒の腐敗を防ぐ法

藤の實を煎じて入置けば腐敗せず又已に酸くなりたる者にても四五日にて戻るものなり。

◉白かたびらを洗ふ法

夏夕立かありし時其の雨水を貯えて洗ふ

べし誠に綺麗なる事請合なり。

◉飯煮損しを治す法

酒を少し飯に打て蓋をなし火氣を一度通すれば治る事妙なり。

◉夏期飯のねばらざる法

櫃へ飯しをうつし其上へ唐がらしを七つ八つ乘せ置べし、

◉飯のコゲクサキを治す法

竈の肩へ茶碗に一杯水を盛り置けばよし、又一法は釜の下のヲキを取りて飯の上へ乘せ蓋をして置くもよし。

◉餅かびざる法

箱にても桶にても中へ餅を入れ固く蓋を爲しふちへ酒を塗りて密封すべし。

◉水餅にする法

寒の水一斗に鹽六合程入克く沸煮し冷して後餅の粉を克く拂ひ落して漬置べし、何時迄保存するもかびて腐敗する必配なし

◉錫の入物のいがみたるを直す法

錫の器物の中へ小豆を入れ水を入れ置けば小豆のふくるゝに從ひいがみを押だし手輕に直るものなり、

◉つゆ者に毒氣あるを悟る法

湯水茶酒其他何にても汁ある物に向て自分の影うつらざる時は其中に毒氣あるものなり。

◉井戸の底を見る法

井戸の中へ火をともしつりさげ井戸の上より朱塗りの盆等を被へば水底を見え透くものなり。

◉堀井戸に水の出ざる時水を呼ふ法

井戸は水脈に當らされざ水湧出せざれども一度井戸の底にて火を澤山焚ひて固蓋を爲せば大低の井戸は水を呼び澤山湧出つるものなり。

◉井戸堀の先に水脈を知る法

夜分天空晴れ渡りたる時井戸を堀らんとする處にタライる水を盛り置くべし、星の光り大きく明らかに寫る所ならば水脈よし。

◉酢酒醬油等のしみ附除く法

蓮の根をすり附くれば跡なく奇妙に取れる事請合又澁のつきたる時は白砂糖を擦り付て洗ふか燈心を煎して洗るばシミ悉く取れるなり。

◉芋のえぐきを治す法

芋を右の手に持ち左手に鉋刀を持ちて皮をむき又は切れば生にて食しても決して

カンテン廿匁白砂糖五分サラシニカワ貳匁を川水七合にて能く煮解絹にてこし一分程の厚さに塗物へ流すべし。

◎木綿に文字を書く法

其書かんと欲する木綿に水を吹き掛けて書くべし餘り多く吹かば墨にじむと心得べし。

◎接木の妙法

魚膠十匁を水一升にて煮其水の半分になる迄を度とし此液を接口に付けて常の如く接ぐべし。

◎下等の煙草を上等にして呑む法

ゑぐき事なし。

◎墨寫り秘傳の法

槻の板に書くには水を流し充分ふきて書くべし。

◎草木の花色を變色せしむる法

自分の好みの色料を溶解し花瓶の中へ入て押すべし。

◎寢小便を治す法

其者の布團の下に紙を敷て夜尿にてぬれたるを黒燒にして呑せば治す尙寒からさる樣其者へ注意が必要なり。

◎紙ガラス製造法

酒を少づつ吹掛けて箱に入二三度如此して酒氣の失せぬ樣箱に入一月位をけば上品の煙草となるべし

◎喰合せ禁忌

にんじ葉トからし○ほうれん草トどじよう○あんずト栗○梅干ト牛肉○梅干トうなぎ○梅干トたこ○梅干トかに○かぼちやトかに○南瓜トたこ○すもゝト砂糖○すいかトうなぎ○ねぎトなづめ○しそト鯉○みつト牛肉○からしトうさぎ○ふきトかに○すいかトそば○ふなト砂糖○うなぎトぎんなん○かもトきくらぎ○とり貝トわさび○梅トそば○にわとりトこい○まくわうりト油餅○とうちさトこのしろ○きじトかしわ肉○なまずト牛肉○なまずトぶた○猪肉トしようが○猪肉トそば○鹿肉トえび○そばを多食して入浴すれば胃を破る。

◎植木鉢に苔を付ける法

蝸牛をつぶし其汁を石の上に引きてかげにおきたび〳〵水を掛べし油糟をほどこすもよし。

◎寒にこゞゑぬ法

胡椒をいりこがし紙に氣の拔けざる樣に

包みてへそにあてるべしからだ中暖かなり又檜の實を酒にひたし三日間かげぼしにして凍へたる處へぬるべし。

◎藍の色を拔く法

水に石灰を入れ染たる藍色地を釜に入れて好く煮れば元の白地となるなり。

◎風呂或は水船のもりを止る法

香の物のいえに酒のかす入りたる隨分古きいえにせんくずを交せてしつくいして好く乾かし用ゆべし。

◎以下呪法

◎夜目さめたき時の法

人まるやまことあかしの浦ならば
我ニも見せよ人まるのつか

右の歌を三べんよんでねる時は何時にても思ふときに目さめるものなり。

◎夜なきの呪

あしはらやちはらの里の晝狐
晝は泣くとも夜ハなゝきそ
ひとよるは泣くともひるななゝきぞと
よみがえるなりけりなりとのべ

右のうたを男の子には左の耳より女の子は右の耳より吹き入るべし

◎夜怪しみあるとき目さむる法

うちとけてもしまとろむ事あらば
引たどろかせ我枕神

右のうたを三べんとなへてねれば何時にても目さむるものなり。

◎田虫まじなひ

田虫の中へ南の字をかき上を墨にてぬりたくべし妙にいゆなり

◎金け留るまじなひ

鍋釜にても其鑄口に灸一火すゆれば忽ちとまる又木瓜を五つ六つ入れ水一升入れてたくもよし。

◎川を渉るに無難のまじまい

筆にても指にても土の字を書くべし米にて書きたるを持てば猶難なし。

◎金物を糊にて張まじない

のりに塩を入てはるへし日を經るほど離るゝ事なし。

◎乾鮭をきる呪

及ものに胡麻の油を引て切るべし心よく切るなり、又紙につゝみあつ灰に暫く入て切るべし心のまゝに切るなり。

◎かみ犬を防ぐ呪

われは虎いかになくとも犬はいぬ
しゝのはがみやたそれざらめや

此の歌三べんとなへ次に
戌亥子丑寅と大ゆびよりかぞへ五つのゆびを握り固むべし

◉女の外心あるを顯す法

東の方へ行く馬の足の下の土をとりて女の衣類に入れたくべしその意自から詞にあらはるゝなり。

◉たこりたとす呪

霜おちて松の葉かろきあしたかな
雲のたこりをはらふ秋風
月はいま日ませになりてかげもなし

右盃の中へ字しやう見へぬように書て早朝の水にて字をあらい呑むべし尤朝日にむかひて呑むがよし。

◉塗物に紙をはる呪

糊にふしの粉を練ませてはるべし

◉乳かせの呪

鯉と云ふ字をはれたる處へ書て墨にてぬるなり

◉ともし火へ虫よらざる呪

イシフシエンリンキリフクエンブクリンと片かなにて書て燈火のある處へはり置べし。

◉蛇を家の内へ入れぬ呪

舊五月五日午の刻に辰砂を以て茶といふ字を書きて門柱に逆に張置ば蛇うちへ入らざるなり。

◉にら、にんにく、ねぎを食して口中の臭きをさる呪

蒜葱の類を食してのち紙をしがむべし臭氣をさる、又砂糖をなめるもよし、飴を食するもよし。

◉はげ山に木を生ずる呪

米俵をはげたる處へしき置くべし自然雨露にくちて木草を生ずるなり。

◉畑に虫つかざる法

其畑の四方の角へ馬の瓜の切たるを埋むべしきはめて虫つかず妙なり。

◉もの志れせぬ法

五月五日夜いまだ明ざるとき東へむかひたる桃の枝をとり三寸に切り衣服のゐりにぬひ入れて置べし記臆よし。

◉暑氣に中らぬ法

炎天の節道を行には艾を臍の中へ入其上を下帶にてしめて歩行すべし暑にあたらず霍乱等のうれひなし但寒中にもよし。

◉小便を久しくこらゆる法

見物又は貴人の前に出又つとめ事にて小

便を遠ざからんと思ふときは青松葉をよくもみてへそのうちに入置べし。

⊙小兒頭瘡の法

あみ笠を頭にきせ上より水をいく度もかけてよし但くさのまじなひはことによればは内攻する事ありたゞ服藥して追出すにしかず。

⊙しやくりを留る法

男は左女は右の手の中に犬といふ字を三べん書くべし、又舌の上に小刀の先にてさはらぬやうに如是空と三べん書くべし。

⊙耳だれのまじなひ

大根のしぼり汁をこよりさきに付けて入れるなり又むかでの油もよし。

⊙目いぼを治する呪

目いぼの先へ杓の柄のさきをあて「目なほれ犬のくそ〳〵」と三べんとなへ其一べん〳〵杓の柄先を目いぼへあてるべし二三日に治す。

⊙目に物の入たるを出す法

物の入たる方の頰のうちを舌にて三べんねぶるべし又柚のたねを黒やきにして少し舌の上に置くもよし。

⊙指一さいの奇法

ゆびのわづらひ一切にはわかめを黒やきにして。とりもちにてねり付てよし。又ゆび先き。にはかに痛むには木のやにを付てよし。又鮒をつぶし泥のごとくにし付てよし。又みゝづをつきたゝき付るもよし。又梅干の肉を付るもよし。

⊙あひるに玉子多く産す呪

大唐米を餌にして飼ふべし玉子多し

⊙あせぼのまじなひ

きうりを小口ぎりにしてその小口にてあせぼをするべし。

⊙ざくろ鼻を直す呪

枇杷の葉とくちなしと二色粉にして用ゆるべし。

⊙こむらがへりを治す呪

ぼけ〳〵と三べん唱へてさするべし又男は陰莖を引べし女は乳を右左へ引もよし直に治す。

⊙こぶたとしの呪

丹礬を小よりにひねり込これにて瘤をくゝり置くべし自然にしめよせてだん〳〵と小さくなりてたつるなり。

⊙木の實に鳥をよせぬ呪

髪をかもじのごとくむすびて樹の上にか

くべし但し死髪はあしし。

◉胡椒を粉にする法

茶わんにつぶこせうを入れ瓢箪にてつぶすべし。

◉手足をくぢきたる治法

水仙の根葉ともに黒焼にして梅干とそくいにてねりてはるべし。又芭蕉の根葉を粉にしてそくいにてはるもよし。

◉耳に蟻の入たるを出す呪

とう心にあぶらをひたし入れ出しすべし。又杏仁を耳へすこし入れるもよし。

◉あかぎりの法

五月五日の早朝にが菜をつみ汁をもみ出しあかぎれ出る所へ付べし奇妙也。

◉まむしを去る法

かのこまだらの虫あらば
山たつひめにかるとかたらん

右歌をかきて懐中すべし。又山中草原など秋の頃行には

さんしやう。こしやう。かつてゝこぶり

と唱へ行べし足もとに居るともおそれてにげ去るなり。

◉同さゝれたるを治す法

粉ふき柿をつけて妙なり。又百足の黒焼を付るもよし。

◉毛虫を去る法

するめの頭にあるびら〳〵を細き竹を二三寸にきり其中へ入れ枝に釣るべし又魚を洗たる水をそゝぎても虫を生せず。

◉下血の法

指鯖の頭を黒焼にして湯にて用ゆべし又梅干の黒焼を粉にし湯にて用ひてもよし。

◉下疳の法

そばがらを水にて煎じ洗ふべし又田にしを黒焼にして付るもよし。

◉目まいの治法

くちなしを黒焼にして酒にて用ゆべし。

◉うをの目の法

餅米をかみて付べし二三度にて治す。

◉のみ。しらみ。耳に入たるを出す法

石菖にて耳をふさぐべし必ず出る。

◉のみをさる法

紙に欠我青州木瓜錢と七字書て床の下にはるべし、のみ虱とも去りてあつまらず。

◉咽に物の立たる法

九龍化骨神侵身

此文字を盃の中にかき左にてときのます

べし。

◉咽に餅つまりたるを直す法

急にさけをあたゝめ其人の鼻へふき込べしやがて吐出すなり。

◉咽かはかざる法

にんにくを鼻の穴にぬるべし咽の乾くことなし雪中には大に寒氣をふせぎてよし

◉くさびらの毒を解する法

くさびらの毒は命にかゝはる物なり早くくちなしをせんじ用ゆべし。

◉蜘蛛にさゝれたるを治す法

芋の莖をつきて其の汁を付てよし。

◉うるしにまけぬ法

うるしの器物を持ときそのうるしぬりたる處をねぶるべしぬり立の器物にてもまける事なし。

◉百足にさゝれたるを治す法

指にて地のかはきたる處に王の字を書き其字の眞中の土を取さゝれたる處にぬるべし。

◉耳に虫の入たるを出す法

にらの汁と酢とを合して耳へ一しづゝ入るべし虫飛出るなり。

◉馬を舟にのする法

天ぢくの流沙川なるわたし舟
こまもろともにのりの道かな

右歌を三べん馬の左の耳へ口をそへてよみ入るなり、又馬の額に賦の字を書て其の賦の字の点を舟の中へ打べし馬すみやかに乘るなり。

◉羽蟻出るを留る法

はありとは山のくち木にすむ虫の
さとへ出るはおのがひがごと

右歌をかきて其出る處へ逆に張るべし再び出です。

◉はぎりを治す法

米一つかみ左の手ににぎりて雪隱へはいり右の手にうつし米を喰ふべし奇妙なり。

◉紋所のよごれを除く法

だい〳〵の實の汁を紋の地白の處へぬり其上にうどん粉をぬりよく乾かして後拂ふべし奇麗に取れるなり。

◉蜂にさゝれたる時の法

葱の白根にて引灸すべし又さゝれたる場所の(有合せ物)竹にても地上に丙丁火と書て口のうちにて念ずる事七へん其土をさゝれたる所へぬるべしいたみ即座に治す又たでの汁もよし。又生の里芋をたろ

し付るもよし又さゝれたる所を口にて度々吸もよし。

◉いぼを取る法

いぼの大さぐらゐに筆のぢくに紙をまき長さ一寸ほどにして其紙の小口に火を付ればいぼの根にしわよりて夜の間に落ること妙なり又いぼ二つ三つも出たるには。から芋の蔓を引きり白き汁いづるを度々付べし又總身に多く出たるには手の五の指のまたに小豆粒ほどの灸を日に一つづゝ七日すゆべし必ず取れるなり。

◉いたみの道をとむる法

胡椒を紙につゝみていたちの通ふ所にれくべし再び來らず。

◉犬にかまれたるを治す法

かみたる犬の毛を三節計り取て疵口に付べし奇妙に痛みをとめ早く治す。又黑砂糖を付るもよし其疵いへてのちしばらく小豆をいむべし之を喰ばきず再發して腦む事あり

諸商人の符牒

營業種類	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
呉服太物	キ	チ	原	タ	吉	大	オ	未	平	川
小間物商	イ	平	生	丸	カ	モ	ノ	方	リ	ー
古着商	フ	ク	ハ	キ	タ	リ	メ	テ	ヤ	ー
米穀商	ア	キ	ナ	イ	タ	カ	ラ	フ	ネ	ー
紙商	イ	コ	ヨ	キ	久	位	木	チ	リ	タ
瀬戸物商	分	厘	貫	斤	兩	間	丈	尺	寸	ー
植木商	テキ	ハラ	大工	マヤ	長半	ミヅ	セイナン	バンドウ	キハ	センゲン
人力車	ー	ジバ	ヤミ	ダリ	ゲンコ	ロンジ	セイナン	バンドウ	キワ	ドテ
藝者	ヨ	ノ	ナ	カ	ハ	フ	タ	リ	ヅ	レ

◉世界奇聞集

▲世界一の鐵道哩數

凡そ世界中で、合衆國程年々歳々滊車鐵道を敷設する國は外にない、即ち千九百七年の敷設は五千六百餘哩、千九百八年は五千二百餘哩に及ぶ、昨年は四千二百餘哩米國の興業の盛大思ふべしである。

▲官吏の集金人

エヂプトに於ては、小百姓は農業銀行から九分の利付で、借金することを得せしめて居るが政府が殊に同銀行の爲めに、收稅吏をして其の收金をさせて居る。

▲故英帝自作の小舍

英國先皇帝は其の登極前は慰み半分に色々の事をせられたが、或時煉瓦製造及び建築師の業に從事せられた今尚オスボンに故陛下と御兄弟で造られた小舍が殘つて居る又バルモレオヲラルにも當時のアルバート太子と其王子とで造られた物置小舍が殘つて居るさうである。

▲セイロン島の大眞珠

印度セイロン島で、最大の眞珠が千五百弗以上の價で賣られたことがない、併し一度世界の大市場へ持ち出されると、此等の眞珠は三倍以上の値で賣買せらるゝさうである。

▲賞金十萬弗

米國ニューヨーク關稅副檢査官リチャード、エー、バール氏は稅關吏員を督して、精糖會社が多年の間、不正の脫稅を行ふた事實を調査し遂に同會社をして二百十三萬五千四百餘弗の不足稅を上收せしめた爲め、此程大藏省から十萬弗の賞金を得たりと。

▲ロンドン市の住人

最近の調べによると、英京ロンドン市には七百五十三萬九千百九十六人の人が住んで居るさうである。

▲アフリカの曹達湖

アフリカで有名な、曹達湖マカディは近頃大變に水が淺くなつて底が紅色の大理石の樣に光りて見るるので大評判である探險の結果、それは二萬平方里に亘る一大結晶曹達であることが判ッた

▲高價なる時計

米國の大富豪モルガン氏は近頃獨逸ベルリン市の一紳士が好事癖から蒐集した珍奇な懷中時計の内最も年代が古く且ツ裝飾に善美を盡した一個を百五萬圓で購ひ求めたさうである。

▲英米人の砂糖食ひ競べ

英國人は一年に一人平均八十五斤を食べ米國人は同じ〳〵六十一斤を消費すると云ふ。

▲世界唯一の四足鳥

四足鳥及翼の上端に猶指の附着した鳥ば化石として度々發掘され、嘗て生存して居たことを證するに止るが今も唯一種クレストホクトジンと稱する四ツ足鳥が英領ギアナに生き殘つて居るさうである。

▲最長の潜水時間

何人も水底に、四分四十五秒半以上は潜つて居られないさうである。

▲アラスカの金坑

世界に名高い米領アラスカのコロンダイク金坑は、昨年中に三百五十萬弗の産金があつたが、最近十年間の産額を通計すると、實に一億五千萬弗の巨額に上るさうである。

▲壁を突破つて五萬弗

米國ニューヨーク市外に住むボースなる青年の父は、一代に數十萬の富を造つたが、仕舞場を遺言せずに死んだので一家忽ち生計に困る境遇となつた。ボースは遂に病に罹り臥て居たが、或夜床の上で足を伸したら壁をつき破つた。驚いて破目を見ると光るものがあるので、不思議に思つて取り出して見ると、金色まばゆさ金貨が五萬弗、小壺に入つて居たさうである。

▲倫敦の氷

英京ロンドンでは一箇年間に費ふ氷の量は二十萬噸以上である。其の大部分は人造のもので、天然物は諸威から輸入するこの諸威の天然氷の産額は一箇年六十萬噸に及ぶさうである。

▲最も長く使はれる切符

獨逸帝國の一部普魯西國内のすべての鐵道が發賣する、往復切符は、道の遠近に係らず四十五日間有効であると云ふ。

▲巨額の煙草賣高

佛ランスの煙草專賣局は、最近一箇年間に六千五十人の職工を使つて、一億六千

萬圓の收益を得たりといふ。

▲王宮の支停止

彼斯の王宮は財政紊亂して、同宮中に奉仕する婢僕に給料を拂ふとも出來ぬ困憊の狀態にあるさうである。

▲無線電船の新造

獨逸では近頃驚くべき發明をした。それは無線電力によつて船が自由に操縱せらるゝ仕掛である。其の船には一人の船員も乘組まず、十八方浬内を一發電所で自由に操縱し得、又必要に應じて甲板の砲門よりは發砲することも出來る裝置であると云ふ

▲野蠻の法律

西班牙では、同國貴族が外國で死んだ時、其の證明に其の死んだ國の官吏、醫師、領事の證明書と、死者の心臟をえぐり出して此を政府に出さねばならぬ定となつて居る。で先頃米國で一外交官が死んだ時、その未亡人は夫の心臟をえぐり取り、眞珠を鏤めた美麗な箱にその心臟を納め國都マドリツトに携へ歸り、國王に示して、亡夫の遺產を相續したさうである。

▲多數の金婚者

露西亞政府では、金婚式（結婚後約五十年目）金剛石婚式（七十五年目）を擧行する老夫婦に。金牌を授與することとしてあるが、昨年中に此の金牌を貰つた夫婦が六百十四組あつたさうである。

▲だん〳〵小さくなる人の足

英國の有名な彫刻家の研究する所によると、人間の足は年々に小さくなつて行く傾きがある、二十世紀前の男子の足の長さは、約十二吋あつたものが、今日では平均十吋七分の五になつて來たさうである。

▲馬鹿にならないヒキ蛙

米國の農藝技師が、ヒキ蛙に就て面白い意見を發表した、それは農園を荒す蠅其の他の害蟲をば、ヒキ蛙が一分間に八十六疋捕食するとを確めた。で此の有益な動物は一疋少なくも二十弗の價値ありと云へり。

▲汽車は何處へ乘るが安全か

英國の有名な鐵道專門家が學理上及び實驗上から研究して得た報告によると、汽車に乘て一番安心の出來る位置は、列車の最後部から一つ前の車がよろしい、と

りわけ其の中央部が最好の位置なりと云

▲海波の利用法發明

伊太利のアゴスチノ、ラヴエリ氏は、地球創造以來人類の無視して居た一大原動力――海波の利用法を發明した發明者曰く、海波には二種の勢力あり、一は水平以上に出でざる波瀾の高きより生じ、一は岸上を打つ波瀾より生ず、今月まで波瀾の原動力として使用せられざりしもも、實は世人が此の勢力を覺らなんだに基くなり、即ち波瀾動力を貯ふるに用ふる機器は二個の車輪を有する臺上に、据付けた傾斜盤であつて、之を水中に推し進め、別に一器ありて波瀾の動力を車輪に移し、以て回轉を行はしむるものなりといふ。

▲印度の奇蜂

印度內地を旅行すると、色々不思議なものに出逢ふが、一番驚かされるのは蜂である、殊に夜道をすると森林から恐ろしい大きな蜂が飛び出して尾いて來る。或る好奇心の人が探索して見たら其の巣の長さ七尺餘り幅五尺もある大きなものであつたさうである。

實驗著述 **催眠術自在** 再版

郵送費共 特別割引 金貳拾五錢 切手代用壹割增

目次概要 催眠學の起源◎暗示應用總論◎暗示の種類◎疾病治療法◎催眠施術法◎自己催眠法◎催眠醒覺法◎**千里眼**◎**天眼通**◎仙術と忍術◎人心磁力◎狐狸の論及び催眠術◎靈魂の不滅◎呪詛と禁厭◎各種の呪法及び禁厭◎催眠術◎幽靈◎無生物仕業◎動物催眠術◎催眠術施術極意◎結

催眠術は人心を制し疾病を治療し惡癖を矯正し相場の高低を未前に豫知する事を得

透視の如きは本書を一讀直ちに其神秘を悟るを得

彼の不可解的千里眼

●小綺麗にして金を儲けんとする人は速に此の人類天稟の一大能力を知得せよ

百笑珍話無理問答 好評（郵稅共一冊十五錢 切手代用十七錢）

位い面白い笑い給へ轉げ給へ少年小女學生諸君不平で暮すも一生だ昔から笑ふ門には福來ると云ふ一日も早く讀んで地獄の鬼や閻魔を笑はし給へアゴがはづれたら直して上る

◎一讀抱腹絕倒頭から湯氣が立ち眼から火が出て鼻から涙息も止る生なら笑ふて暮すも一

發賣元 三重縣四日市市新丁 振替大阪七六七三番 **弘運館**

弘運館代理部發賣品目錄

一萬古燒煎茶器

茶碗五（特等壹組金壹圓五拾錢）
湯サマシ（壹等壹組金壹圓貳拾錢）
茶越付（上等壹組金九拾錢）
七ツ揃

金銀書附又ハ文字入御好次第

●送料壹組金拾貳錢、清、朝、台灣、樺太、金三拾五錢

萬古燒煎茶器の高尚優美にして其の急須内に裝置せる茶越の完全無欠なる天下恐らくは是れに優るの煎茶器あるを見ず眞に茶器界の覇王なり、故に萬古燒煎茶器は只だに愛煎家の占有物に非ずして必ずや一般家庭に壹組を備ふるの要あり萬古燒は我四日市々の特產物にして内地は勿論年々海外に向つて數十萬圓の輸出を爲しつゝあるに徵しても如何に萬古燒が社界の各階級に歡迎せられつゝあるかを知らるべし弊館は今回最大なる釜元よりの依頼に依り發賣するものなれば品質の精良なると價格の低廉なるは慥に一頭地を拔くの慨あり包ふ壹組を求めて益々御高評を賜はらん事を

三重縣四日市市新丁
振替口座大阪七六七三番

弘運館代理部

發明最新 **五色筆**

大勉强壹打箱入
送料共金拾五錢
切手代用壹割增

（此の五色筆なるものは現代圖書家の理想に適ふ色鉛筆代用品にして書き心地好く且鮮明に而も價格の低廉なる實に一世の優等品なり是非壹箱を求めて其眞價を知れ）

せともの つぐくすり **萬能のり**（見本送料共金拾五錢）

新の發明なり本品を行商する人は一日貳圓以上の收利あり諸君起て奮へ

陶磁器の破損物を容易に修繕し且シルシ家號等を入るゝに妙而もつぎ目の堅固なる事石の如く近來最

機械不要 **早取寫眞インキ**

郵送料共
說明書付
上製壹瓶 **金拾五錢**

本品は滿天下の諸君に大好評を以而迎へられたる逸品なり本品を用ひて自已の肖像又は名刺を製し或は人物風景等意の如く美術鮮明に速寫し得る誠に愉快なる物なり其方法は至極簡易にして何人と雖も熟練するの要なく直に速寫し得る事眞に妙

三重縣四日市市新丁
振替口座大阪七六七三番

弘運館代理部

◉神代的美術腐蝕看板の發賣◉

一門　標

横貳寸竪六寸　壹枚金參拾參錢
姓名字体隨意　送料金貳錢

一扁額及ビ看板

横壹尺五寸竪壹尺
極彩色花鳥草木及ビ書
但し寸法御隨意

壹枚金壹圓九拾錢
送料壹枚金拾六錢

但し使用木材は五寸内外の物は厚さ正五分壹尺以上の物は正壹寸厚

◉廣告用扁額は意匠の御相談に應じ又は原稿の揮毫に應ず右は概界標準直段なれば寸法形狀御指定の分は左の料金申受候

一拾坪末滿　壹坪金參拾錢　（以下壹坪とは一寸平分角を云ふ）
一拾坪以上　壹坪に付金壹錢五厘增
一五拾坪以上　壹坪に付金壹錢增

◉製作は迅速着金拾日以内に送る◉

以上揚ぐる所の神代的美術腐蝕看板に最近の發見に係る技術に依て製作したるものにして眞に神代的古風を帶び高尚優雅天下無比の佳品なり宜なるかな東都に一大流行を來し今や京濱地方に數十の特約販賣店を有す、然れども京濱地方の特約店のみにては全國同好者の需めに應ずる事出來難きを以て今回全國各地に取次販賣店を募集せんとする者なれば取次ぎ希望者は速に御申込相成度候

◉諸君試みに大奮發して金參拾五錢を投し自己の標札一枚を求めよ而して如何に神代的古風を帶べる美術的門標なるかを知れ

▲若し製作術の傳授を受けんとする人は御申込次第少額の報酬にて責任を以て御教授可申上候

三重縣四日市市新丁

弘運館

（振替口座大阪七六七三番）

致富秘訣

商人哲學

近刊豫告

送料共定價一冊 金廿五錢

切手代用一割增振替壹錢增

◎目次概要、神變不可思議定期市場必勝法◎兵法と相場道の極意◎智力金力膽力◎慾と金◎相場高下論◎諸商買の論◎相場師の秘訣◎陰極と陽極◎理外の理◎天井底の觀側◎人氣の裏◎禁言十歌◎心得三十歌其他日常相場道に須臾も欠く可らざる名歌五十有餘種

本書は實業家と定期相場師とを不問凡百の商業に從事するものの羅針盤にして商人必備の寶鑑なり名づけて商人哲學と云ふ其の記する處の言々句々悉く奇警にして如何に哲學的句調を帶べるかわ一續の上御好評を賜らん事を

發賣元 三重縣四日市市新丁 振替口座大阪七六七三番 弘運館

繪畫獨習書

大好評

特價金貳拾錢 送料金貳錢 切手代用一割增

本獨習書は近世畫界に名聲嘖々たる某畫伯の筆になれる名畫數拾種を悉く電氣銅版となし是れを出版せるものにして意匠嶄新山水花鳥悉く氣韵生動の妙あり其筆致の清楚濃艶なる實に畫法獨習の珍書なり乞ふ一書を求めて其の眞價を知れ

本書に掲ぐる所の繪畫を皆電氣銅版なるを以て何時にても原版御入用之御方には銅版の儘貴需に應ず

發賣元 三重縣四日市々新丁 振替大阪七六七三番 弘運館

でたり〳〵出たり

好評湧くが如き不思議な者

ソレハ何？水デ字ヲ書ク

萬年草紙

定價（壹冊送料共金拾五錢）

此の草紙は墨を使用せぬ故衣服も汚れず筆も固まらず誠に經濟德用で其上深き趣味を有するが故に書の上達する事請合ほんとに文明の偉大なる發明品です特約希望者は見本御購求の上返信料附御照會あるべし割引し升

萬年手帳

（定價一冊送料共金拾貳錢）

此手帳は鉛筆を使用せず竹又は木切れ或は釘等にて書けば文字顯れ火にて焙れば消えて元の如く一冊の手帳で何年でも使用が出來ますし旅行した時鉛筆なしで有合の楊枝でも書ますから誠に輕便德用の手帳です

發賣元　三重縣四日市市新丁
振替大阪七六七三番　弘運館

明治四十四年七月廿五日印刷
明治四十四年八月一日發行

不許複製

發行兼著者　三重縣四日市市新丁九十三番屋敷ノ三　佐藤溪峰

印刷者　三重縣四日市市新丁九十四番屋敷ノ二　加藤幸延

印刷所　三重縣四日市市新丁二百三十四番屋敷　三重印刷所　電話百十七番

發行所　三重縣四日市市新丁九十三番屋敷ノ三　弘運館
（振替口座大阪七六七三番）

268
199

特51
522

万家実益 日用宝典

国立国会図書館

101953-000-3

特51-522

日用宝典

佐藤 渓峰／著

M44
EAE-0661